安曇野市公民館報

安曇野市
中央公民館
No.49 2019.7.3
TEL71-2466

第13回　安曇野市公民館大会開催

5月19日、第13回安曇野市公民館大会が豊科公民館大ホールで開催され、公民館関係者ら約300人が参加した。

開会式では、市公民館長会の山田賢一会長が「集う・学ぶ・結ぶという公民館の原点を再認識しながらできることをできるところから取り組んでいってほしい」と述べた。続いて、公民館活動推進功労者表彰、地区公民館報表彰が行われた。表彰団体は次のとおり。

▼公民館活動推進功労者表彰
田中ボランティア会

▼地区公民館報表彰
最優秀賞　豊里地区公民館
優秀賞　野沢地区公民館
牧地区公民館

田中ボランティア会は、敬老会での昼食や賄いの準備、調理、片付けを10年以上にわたり行い、田中地区公民館事業の推進及び発展に寄与した功績が認められた。

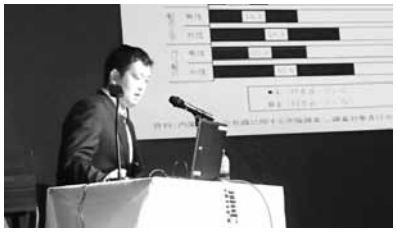
事例発表では、下鳥羽古文書を読む会会長の西沢洋明さんが平成30年8月発刊の「太平洋戦争時下の下鳥羽の記憶」についての発表をした。同会は、地区公民館のクラブ活動として「下鳥羽の古文書を読む」を平成29年11月に発刊しており、今回が2冊目の発刊になる。

下鳥羽地区に生まれ戦没した西沢武雄さんが、沖縄から疎開する学童を乗せ長崎に向かう途中、米国の潜水艦から発射された魚雷に撃沈された対馬丸の船長であったことから自分たちで調べた対馬丸遭難事件や、地区住民の戦争体験談などを冊子にまとめる中で知り得たことや沖縄との交流について語った。西沢さんは「活動を通じ沖縄を身近に感じ痛みを感じるようになった。対馬丸記念館に足を運んでほしい」と締めくくった。

講演　出会い、まなび、地域を拓く　住民主体の地域づくりと公民館

続いて、松本大学総合経営学部観光ホスピタリティ学科専任講師の向井健さんが「出会い、まなび、地域を拓く～住民主体の地域づくりと公民館～」と題して講演を行った。講演の内容は次のとおり。

戦後、地域が荒れ果てた状況の中で、自分たちの地域社会を良くしていこうと、地域のことを学び、考える拠点として作られていった公民館。公民館で行われる行事や活動に取り組み、協力しながら暮らしていた地域の人々は、自分自身の生活を良くしていくためにも支えあっていた。しかし、行政機能の充実と高度経済成長により地域コミュニティは低下していく。多様な生活スタイルになってきている現代においては、個人の生き方が尊重されながら困ったときには助け合えるような緩やかなつながりを構築していくことが必要である。そのために、地域の人々のニーズを聴き取り、みんなで解決すべき課題として捉え、分かち合い課題を解決していくことが求められている。



第56回童謡祭り

豊科公民館は、5月5日、郷土の詩人である藤森秀夫先生をしのび、童謡祭りを開催した。冒頭に豊科コーラスグループの皆さんにより、藤森先生の作品披露が行われた。恒例の「めえめえ児山羊」の全員合唱もあった。

第38回作詞作曲コンクールの表彰も行われ、穂高南小学校2年（現在3年）の百瀬健太さんが最優秀賞を受賞した。応募作品173曲の中から選ばれ、受賞作「飛び出せ仲間たち」が穂高南小学校合唱部の皆さんにより披露された。

演奏会は第1部が地元演奏で、豊科地域の認定こども園の皆さんによる楽しく元気な歌と「安曇野市童謡・唱歌を歌う会」による懐かしい歌が披露され、全員合唱も行われた。第2部は招待演奏で、市内堀金出身のソプラノ歌手山本知佳さん、ピアニスト中島加恵さんの演奏があった。かつて山本さんが在籍していた堀金小学校合唱部と一緒に歌う場面（写真）もあり、会場は温かな雰囲気に包まれ大いに盛り上がった。

古きを尋ねて ㉜

三柱神社（三郷・明盛）

三郷公民館のすぐ西側にある三柱神社は、全国各地に同じ名前の神社があるが、三つの神様を祀っていることから命名されている。村史等によると、新羅大神である新羅三郎、諏訪大神である建御名方命、八幡大神である誉田別尊が祭神とされている。いずれも源氏とその子孫である小笠原氏が守り神として尊崇していた神々で、神事に用いられる紋所（家紋）は小笠原氏の三階菱である。

創建は永享12（1440）年と伝えられているが、正平年間（1346～1370）に源義光（新羅三郎）の子孫である小笠原貞宗が勧請したという説、また戦国時代にこの地を支配していた小笠原氏の一門である二木豊後が天文年間（1532～1555）に建立した等、諸説あり定かではない。

文化7（1810）年の正月に火災で建物と記録文書の一切を焼失したが、7月には本殿が再建された。また、明治27（1894）年に氏子より石灯篭40基と狛犬一対の寄進を得て社域の整備が行われた。さらに大鳥居の移設や社域の拡張などが行われ、大正3（1914）年の遷宮、大正13（1924）年の社地の拡張とともに植樹のための寄付金を募り、境内が古昔の風致に復元され、社務所も建設された。

昭和4（1929）年に樹齢700年を超えるハリギリの木が長野県天然記念物に指定されたが、昭和9（1934）年の台風で倒れ、拝殿を直撃した。その切り株は屋根をつけて保存され、今に至っている。拝殿は修復されるものの昭和39（1964）年には、暴風で社殿北側の大木が倒れ、またもや本殿が大破、松本市内田の大神神社の社殿を譲り受けて移築した。

夏川草介原作、深川栄洋監督の映画「神様のカルテ」「神様のカルテ2」のロケ地としても知られており、櫻井翔演じる栗原一止と宮崎あおい演じる栗原榛名がよく行く神社として設定されていた。「ハルさんお帰り」「イチさんただいま」という台詞が印象的で、神社入り口にはロケ地であったという木札が立てられている。

地区公民館だより

倉田地区公民館（堀金）

倉田地区は、西部の山麓にある岩原地区に接して、現堀金地域の中央部にある上堀地区に挟まれた小集落であった。

1800年代の事である。小野沢を端とする上堀堰は下流域住民の飲用や農用に供する上、使用制限を余儀なくされた。困惑した倉田住民は、松本藩へ願い出て、現松本市島々谷に落ちる冷沢より小野沢へ取水、さらに倉田堰へと導水に成功。（この一連の工事内容は倉田地区公民館内に掲示）その後、平穏に経過したこの地に、昭和30年代に変化が起こる。広域土地改良整備事業により、田畑・用水路・道路、さらに生活水準までも変わり、老朽した倉田集会所は、昭和54（1979）年に上堀地区の賛助を得て公民館を建設した。更に、人口増加により、手狭になったため、16年後の平成7（1995）年に、農村生活向上の趣旨を盛り込み、助成金を得て、現在の公民館が再建された。周囲は駐車場と、唯一のごみステーション、道を隔てて倉田公園があり、近くには南安曇農業高校の「日輪舎」がある烏川農場もある。

納涼祭（マスのつかみ取り）

地区で一番大きな行事は納涼祭である。雨天の場合は公民館で行うが、天気が良ければ倉田公園で行う。大人と子どもが互いに立場を理解し合って、時間や持ち場を厳守する。老若男女を問わず大勢の人が集まってくる。しかし、堀金公民館主催の運動会や冬季スポーツ大会などは、なかなか人が集まらない。そんな運動競技の中で、堀金一周駅伝大会では、近年高順位を保ち、2年連続で優勝することができた。

今後は、他地区からの転入者や同地区で生まれ育った若者たちが、これからの倉田地区を盛りあげていってくれることを望む。

また、有志の好意により月2回モーニングコーヒー店を開いているので、高齢者や独居者の方々も利用していただきたい。

（倉田地区公民館長　藤原　秀勲）

グループ紹介

安曇野アルプホルンクラブ

「安曇野アルプホルンクラブ」は、北アルプスの麓の安曇野市で平成27（２０１５）年に発足した。

「アルプホルン」は、スイスなどの民族楽器で、長さは３ｍ以上ある。アルプスのチロル地方の牧童が放牧された牛や山羊を呼ぶ時や、隣の集落への伝達手段として用いられた道具が起源と言われている。

一本の長い筒であるこの楽器は、ただ吹いて音を出すことはできても、音を変えるためのピストンなどの装置がないために音程を変えるのは難しい。日本では既製品はほとんど販売されないために、檜や杉などの根曲がりの木や間伐材をくりぬいて手作りする人が多いようだが、私たちはスイスの職人が作ったものを輸入して使っている。

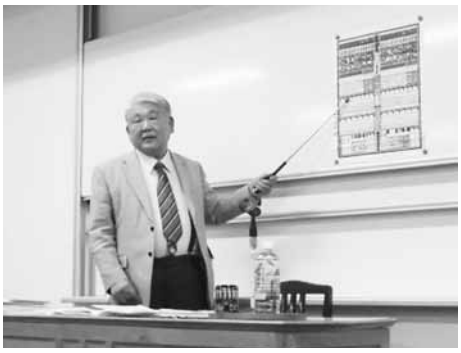
私たちはこの楽器の他に「カウベル」も使う。本来はチロル地方の牛の首に付けられたベルを音階順に並べて演奏する。

クラブはこれまで、安曇野の碌山忌、早春賦祭り、安曇野ドリンクフェスタ、豊科近代美術館バラまつりなどのイベントや、スイス村や大王わさび農場などの主要観光地で演奏させていただいている。昨年から安曇野ハーフマラソンでも演奏させていただいているが、ランナーの応援というよりかえってランナーから声をかけて貰ってこちらがパワーをもらっている。演奏活動のおかげでいろいろな場所に行くことができ、たくさんの方とつながりをもつことができた。今後は、福祉施設などでのボランティア演奏や子どもたちと交流をしていきたい。

私たちの演奏を聴きたい方は、代表へお電話ください。クラブのフェイスブックもあるので活動の様子もご覧ください。

（代表・伊藤由佳　０９０・５１９２・５６３８）

私は一生懸命



公益社団法人俳人協会長野県支部会員
西村紘文さん（豊科）

高校教諭として42年間の教員生活を終え、退職し既に10有余年がたつ現在、私は体調を崩し6年越しの闘病生活を送っている。元気な時は専門の古典や書道を始め、俳句や相撲に興味関心の幅を広げ活動してきた。

特に俳句は、地元の「豊科ささらぎ俳句会」（笠原蜻蛉子（せいれいし）会長＝当時＝）に入会して40年、薫陶よろしきを得て「万緑」（中村草田男主宰＝当時＝）の同人に推挙された。俳句の指導者として、公益社団法人俳人協会長野県支部の会員として幾多の句会に参加している。

なかんずく、私が一番力を入れているのは、小・中学校の児童及び高校生対象のいわゆる「ジュニア俳句」である。昭和46（１９７１）年から今年で通算58回目になる豊科地域俳句大会は、合併前から毎年、秋の文化祭の一環として開催されている。この歴史と伝統ある俳句大会も「ジュニアの部」が新設され、今年で7回目を迎える。昨年は、11月18日に安曇野市在住の小・中・高校生の成績優秀者に対して盛大に表彰式が挙行された。１０００人を超える投句者があり、年々関心も高まり、ジュニア俳句が軌道にのりつつあることは喜ばしいことである。

今後の課題としては、豊科・穂高地域だけでなく、明科・堀金・三郷地域の児童・生徒の投句を募集し、全市あげてのジュニアの部の俳句大会に広げていくことである。今まで以上にジュニア俳句の充実、発展をさせていく努力をし、全市的な俳句大会になることにより交流の輪が広がるようにしていきたい。各学校の先生方の取り組みと、熱心なるご指導、ご鞭撻と保護者のさらなるご協力をお願いする次第である。

絵：加々美　豊
花：ハナショウブ

あかしな

ワインと音楽の夕べ

明科公民館は5月31日に「ワインと音楽の夕べ」を開催し、約50人が参加した。

まず初めに、銀座NAGANOでソムリエとして活躍されている花岡純也さんを講師に「長野県産ワインの未来と食事とのマリアージュ」と題した講演を聴講した。その後、明科天王原で生産したワインを試飲、食事をしながら、モダンデュークスによるジャズコンサートを楽しんだ。「明科いいまちつくろうかい!!」のサロン部会が力作したコロッケやおでんをつまみに、参加者は舌も耳も酔いしれた。

みさと

友だち出来るといいな

4月12日、本年度のひまわりクラブの開講式が三郷公民館会議室で開催された。

ひまわりクラブは、就園前の子どもと親の交流を図る自主的運営クラブで、三郷公民館の講座として、本年度で30周年になる。

申込者は、保護者と未就園の1歳から3歳の子どもで、計39組82人だ。昨年も参加した人は、新入クラブ員に、積極的に話しかけたり、丁寧に質問に答えたりしていた。子どもたちは、気に入ったおもちゃで仲良く遊ぶ子や、なかなかお母さんから離れられない子がいた。今後は週1回、3グループに分かれて1年間活動をし、積極的な交流を目指す。

ほたか

気軽にフラダンス教室

穂高公民館は5月20日に初回の「気軽にフラダンス教室」を開催した。講師は安曇野市・白馬村を中心に活動しているPUMEHANA代表の宮澤咲子さん。初心者対象のこの講座は全5回開催で、現代フラの1曲「ハレイヴァ・フラ」が踊れるようになることと、仲間づくりを目指す。

14人の参加者は、健康のため、優雅な踊りに魅了されてなど様々な受講理由を含めて自己紹介をした。

講師から、フラ（ハワイ語でダンス）の魅力は、子どもから高齢者までハワイアンソングに癒されながら楽しく踊れる上に健康と脳活に役立つという説明を受けた。その後、まずはステップから、そして手の動きを学ぶと、早くもフラを楽しむことができたようだ。

ほりがね

常念坊と信濃の雪形

堀金公民館は5月26日、堀金図書館と共催により「ふるさと常念の里講座・山物語」を開催し、60人余が出席した。

雪形を50年間追い続けている写真家でMGプレス記者の丸山祥司さんが「安曇野に春を告げる常念坊と、伝承文化の信濃の雪形」の講演を行った。安曇野の伝説や民話と結びついた常念岳の雪形「常念坊」の、風土に良く似合った風情とリアルな姿は全国に類がないという。常念岳の名前の由来と言われる徳利を下げた常念坊の雪形は、田植えの時期を知らせたという農事暦とされてきた。

とよしな

豊科地域公民館役員研修会

豊科公民館は、4月13日、豊科地域公民館役員研修会を開催した。

講演は、前真々部地区公民館長の槙石茂幸さんたちによる「初めて作ったホームページ」である。槙石さんは、昨年、館長就任と同時に行事の見直しを図るべく「次世代提言プロジェクト」を立ち上げ、ホームページを作り更新を継続することを提言のひとつとした。実際に「誰でも・いつでも・どこでも」公民館活動を知ることができるホームページを立ち上げ、区民に活用してもらっていることを話した。

参加者は、この取り組みを興味深く聞いていた。

欅

4月から公民館報記者となったが、自分に務まるか不安である。不安と言えば、昨今の気候変動の激しさ。冬の降雪が少なく、暖かくなるのも早いかと思いきや、春先の積雪や遅霜、5月には安曇野市でも記録を塗り替えるような高温が続いた。農作物への影響のみならず、私たちの体調にも大きく影響しそうである。（K・Y）